

景観まちづくりフォーラム～西部地区の町並み探訪～ 開催結果（概要）

■開催日時

令和7年（2025年）10月4日（土）
午後1時30分から午後4時30分まで

■開催場所

函館市地域交流まちづくりセンター
（函館市末広町4-19）ほか

■主催

函館市、函館景観まちづくり協議会

■参加者

46名



■開催趣旨

西部地区の歴史的町並みや美しい景観を再認識し、景観に対する市民意識の醸成を図ることで、西部地区ならではの魅力を将来にわたり受け継ぐことを目指して、「都市景観の日（10月4日）」に開催しています。

今年は、「まちの歴史を知り、町並みを未来へつなぐ」をテーマに、まちあるきとワークショップを行いました。

■開催内容

1 オリエンテーション

(1) ガイダンス「西部地区の歴史と景観」元町倶楽部 山本 真也 氏

まちあるきへの理解を深めるための導入としてガイダンスを行いました。

山本氏からは、開港前に市街地が形成されていたのは西部地区（現在の弁天町、大町、末広町付近）であり、大火からの復興の過程で幅の広い道路が整備されるなど、「燃えないまちづくり」を行うとともに、和洋折衷様式の建物など、異文化が混じり合う景観が形成されたとの紹介がありました。

参加者は、「景観は先人の思いや活動の結果であり、結果に至るまでのまちの物語を読み解くことがまちあるきの楽しみの一つである」との話に大きくうなづく様子も見られました。



(2) コース紹介

まちあるきは、函館景観まちづくり協議会の構成団体が本フォーラムのために考えた選りすぐりの3コースを設定し、函館景観まちづくり協議会が制作したオリジナルマップを配付のうえ、各担当団体から、まちあるきコースのテーマや見学のポイントについて紹介がありました。



2 まちあるき

(1) 第1コース

テーマ：異国文化が織りなす歴史と町並みを未来へ

行程：元町教会群 → 旧函館区公会堂（内部見学） → 元町公園ほか



(2) 第2コース

テーマ：魅力的な景観は誰のもの！？

行程：郷土資料館 → 中華会館（内部見学） → 弥生小学校ほか



(3) 第3コース

テーマ：開かれた港の歴史と町並み保存のこれから

行程：旧棧橋 → 北海道第一歩の地碑 → 風花日和（内部見学）ほか



3 ワークショップ

まちあるき終了後、コースごとに、まちあるきの感想を共有しました。

参加者は、ガイダンスやまちあるきを通して、歴史的建造物の保存・再生や空家の活用など、「町並みを未来へつなぐ」ことに対して考えを深めたようです。

ワークショップの後半は、各コースが一堂に会し、全体に共有しました。

第1コースでは、建物の色の違いや異なる宗教が集まる多様性に注目した感想があったほか、歩道の確保や石垣の保存、木造建築の保存強化など、課題も挙げられました。

第2コースでは、テーマに対する答えとして「景観はみんなのもの」という意見が多かったほか、歴史的建造物の維持には経済的メリットも必要なことから、建物の歴史や価値を理解することが重要であり、本フォーラムの継続により、市内外への理解を求める必要性について発表がありました。

第3コースでは、歴史的建造物の保存・再生をした建物所有者の話を直接聞く機会が設けられたことから、歴史的建造物や町並みの保存に関する意見が多く、市民の宝である景観を守っていかねばならないとの話がありました。



4 まとめ

最後に、函館景観まちづくり協議会の岡田会長から、本フォーラムのまとめとして、「景観を未来に残すためには、まずは興味を持って函館について知っていただくことが重要であるが、みなさんはすでに第一歩を踏み出している。函館景観まちづくり協議会の構成団体では、様々な活動を行っているので、ぜひ、参加していただきたい。これからもみなさんとともに、景観まちづくりに取り組んでいきたい」との話がありました。

